
新潟青陵大学
入学試験問題
－ 小論文 －

2023

※解答例は掲載していませんのでご了承ください。

2023 年度
新潟青陵大学
学校推薦型選抜・社会人特別選抜・
新潟青陵学園内特別推薦入試 試験問題
「小論文」

試験の受け方について

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題用紙には手を触れないでください。
- 2 問題は全部で2ページです。
- 3 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 4 解答用紙には受験番号・氏名を必ず記入してください。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 印刷が不明瞭な場合のほかは、問題について質問は受けません。
- 7 試験終了時に解答用紙を提出してください。
- 8 試験終了後に問題用紙と下書き用紙はお持ち帰りください。
- 9 不正な行為があった場合は、解答はすべて無効となります。

小論文問題

- 一次の文章を読んで、この文章の要旨を六十字以内で要約しなさい。
- 二次の文章を読んで、この文章についてのあなたの意見を五百字以上六百字以内でまとめなさい。

最近、価格比較をしてくれるサイトを見つけた。

欲しいものを入力すると、複数の店の販売価格が安い順で表示されるのだ。同じ商品ならば、一番安く売っているお店で買いたいのが消費者心理である。

すなわち「最小の費用で最高に価値ある商品を手に入れる」ということである。

この消費者心理が、教育の現場に蔓延しているそうだと。先日、大学の先生からこんな話を聞いた。

「4年制大学なので卒業に必要な単位数は最低130単位なのですが、多くの日本の学生がギリギリの130単位を取得して卒業します。でも、留学生の多くは少しでも多く学ぼうとするので優に150単位は取っています。学費は同じですから」

朝日新聞の「仕事力」というコラムに似たような話が載っていた。哲学者で武道家の内

田樹^{たつ}さんの記事だ。

「医学部の先生から聞いた話ですが、授業の後、質問に来た学生がいて、講義の内容について聞かれるのかと思ったら、『これ国家試験に出ますか?』と聞いてきた。こういう学生は『最低の学習努力で最高に価値ある学位を得る』ということを期待しているのです」

さらに内田さんは労働市場でも同じような原則を適用しようとしている若者が増えていくことを指摘している。

すなわち、「最小限の労働と引き換えに最も高い報酬を期待している」とか「最も少ない努力で最高の評価を受けるような仕事がしたいと思っている」というのである。

就職活動をしている学生たちはこれを「自分に合った仕事に就きたい」という言葉で表現する。「適職」というものだ。

つまり、今自分に100の能力があるとすると、100の能力のできる仕事を彼らは「適職」と呼び、「自分は人と話すのが苦手なので絶対営業職は無理。事務職じゃなきゃだめ」などと決め込んで、自分の無限の可能性に蓋をしよう。

僕は今、短大で非常勤講師をしているが、学生たちがよく言うのが「自分にはどんな仕事に合っているのかわかりません」である。

そんなことは当たり前である。人生経験などほとんどなく、しかも職業人としての経験はゼロに等しいのに、「自分に合った仕事を探す」なんて慢心極まりない。

職業とは、探すものではなく誰かに選ばれて就くものだ。だから「天職」のことを「コーリング」という。「呼ばれる」という意味である。

(中略)

若いときは、自分にどんな可能性が秘められているか、自分もわからないし、先生も親もわからない。だから100の能力しなくても150の力を発揮しないと出来そうになり、苦手なことや困難なことに、若いときは挑戦していくべきなのだ。

そうやって今の環境の中で最大限の努力をしている人が最終的に選ばれる。

教育や労働市場では消費者心理の原則は通用しない。

「自分に合った仕事を見つけよう」なんてきつと幻想だと思う。

水谷もりひと 「いま伝えたい！子どもの心を揺るがす”すごい“人たち」

(ごま書房新社) 二〇一五より

